防除所ニュース　　発行　平成２９年８月２２日

平成２９年　第９号　　京都府病害虫防除所

★ 中晩生水稲の穂いもちに注意！！ ★

８月中旬に行った巡回調査の結果、葉いもちの発生は山城地域で平年並、南丹地域で平年比やや少なく（表１）、穂いもちの発生は山城地域で平年並、南丹地域で平年比多い発生でした（表２）。

また、向こう１か月の気温は平年並または高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ないと予想されています。

今後、移植時の箱施用薬剤の効果が低下する時期になることから、中晩生水稲では、気象条件によっては、穂いもちが多発することが予想されますので、葉いもちの発生が多い場合は、治療効果がある薬剤などで防除を徹底しましょう。

表1　葉いもち巡回調査結果（8月第4半旬）

地域	項目	本年	平年値
山城	発生ほ場率（％）	16.7	23.1
	発病株率（％）	0.7	2.7
	発病葉率（％）	0.00	0.05
南丹	発生ほ場率（％）	11.1	31.2
	発病株率（％）	2.7	6.6
	発病葉率（％）	0.00	0.15
中丹	発生ほ場率（％）	0.0	17.1
	発病株率（％）	0.0	2.3
	発病葉率（％）	0.00	0.15
丹後	発生ほ場率（％）	0.0	9.8
	発病株率（％）	0.0	1.6
	発病葉率（％）	0.00	0.05
府全体	発生ほ場率（％）	6.7	20.3
	発病株率（％）	0.9	3.5
	発病葉率（％）	0.00	0.10

※発病葉率：上位2葉の発病率。

表2 穂いもち巡回調査結果（8月第4半旬）

地域	項目	本年	平年値
山城	発生ほ場率（％）	0.0	14.3
	発病株率（％）	0.0	0.6
	発病穂率（％）	0.00	0.03
南丹	発生ほ場率（％）	77.8	15.3
	発病株率（％）	10.4	3.9
	発病穂率（％）	0.62	0.15
中丹	発生ほ場率（％）	0.0	8.3
	発病株率（％）	0.0	1.2
	発病穂率（％）	0.00	0.07
丹後	発生ほ場率（％）	0.0	5.4
	発病株率（％）	0.0	0.4
	発病穂率（％）	0.00	0.02
府全体	発生ほ場率（％）	28.0	9.5
	発病株率（％）	3.8	1.8
	発病穂率（％）	0.22	0.08

☆ 防除上の留意事項 ☆

（１）上位葉へ進展した葉いもちの病斑は、穂いもちの重要な伝染源となる。

（２）ヒノヒカリ、祝など発病しやすい品種や、すでに葉いもちが多発している水田や山間部の水田では特に注意し、防除適期に薬剤防除を実施する。

（３）出穂後、曇雨天が続く場合には、傾穂期前後にも防除を行う。特に、枝梗は遅くまで菌の侵入を受けるので、枝梗いもちの発生に注意する。

（４）葉いもちの発生が多い場合は、治療効果がある薬剤（カスガマイシン剤：商品名カスミン剤等、フェリムゾン・フラサイド剤：商品名　ブラシン剤等）で防除する。

（５）平成２５年度に中丹地域の一部で、ストロビルリン系薬剤（QoI剤）耐性菌が発生した。耐性菌の発生地域では、いもち病に対するQoI剤の使用を中止し、他系統の薬剤（抵抗性誘導剤、MBI-R剤等）を使用する。QoI剤を使用したほ場で、防除効果の低下が疑われる場合は、他系統の薬剤で追加防除を行うとともに、速やかに病害虫防除所または、関係機関に連絡する。

詳細は京都府病害虫防除所ホームページ

（アドレス　http://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/news20131113_2.pdf）を参照のこと。

（６）防除の際には、周辺ほ場に農薬が飛散しないよう十分に注意する。

（７）農薬の選択に当たっては普及センター、農協等と相談し、使用時期（収穫前日数）や使用回数等の使用基準を遵守して適正に使用する。なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」を参照のこと。

（http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html）